

地球の仲間とつながろう 森の人「オランウータン」と一緒に生きる喜びを！

小学校低学年 小学校高学年

小学校中学年 中学校

ESDの要素

持続可能な社会づくりの構成概念

多様性

相互性

有限性

公平性

連携性

責任性

ESD視点で育みたい能力/態度

【批判】批判的に考える力

【未来】未来像を予測して計画を立てる力

【多面】多面的、総合的に考える力

【伝達】コミュニケーションを行う力

【協力】他者と協力する態度

【関連】つながりを尊重する態度

【参加】進んで参加する態度

プログラムの目標

①人間の日常の暮らしは、あらゆる生き物と共存していることに気付き、その生き物の立場になって考えることで「命の大切さ」を学ぶ。②世界中で人間が引き起こしている環境破壊による絶滅危惧種の存在を題材に、その要因や各問題を多面的に理解する。③世界に目を向け、人間と生き物が平和に暮らすためには、何が問題か、何が大切かを整理し見直すことで、今後の環境に配慮した持続可能な社会の在り方を考え、問題を解決しようとする人材の育成を目指す。④参加児童がプログラムの成果を、家族や地域と共有することで、持続可能な地域社会の形成や継続的な環境保全に向けた一歩を踏み出す。

プログラムの概要

21世紀に入ってもなお、世界では自然環境の荒廃、地球温暖化による異常気象、生態系破壊等の様々な問題が存在する。この多様な問題の解決には、自ら課題を見つけ、学び、考え、客観的に判断し、協力しながら行動する力が必要である。本プログラムでは、世界中で拡大している森林伐採等の環境破壊で影響を受けている生物の中から、絶滅危惧種のオランウータンを題材に、人間と生き物の関係を理解し、持続可能な社会はどのようにすれば実現できるのかを学ぶ。海外の環境問題に対し、日本にいる自分たちができることや、豊かな自然と生き物を守る為の仕組みの構築を考える内容とし、将来目指すべき地球の姿や社会の実現に向け、主体的に取り組む力を習得する。

学習指導要領との関連

学年	小学校6年	小学校6年	小学校6年
教科/領域	理科	社会	総合的な学習の時間
学習内容	2(3) 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境との関わりについて考えをもつことができるようにする。	(3) 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解しあうことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。 イ 我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の動き	-



相互性

ゲームを通し、生態系は様々な生き物がお互いに関わりあって成り立っていることを学び、生命を尊重する態度を養う。



有限性

生き物と人間のつながりを学び、限りある資源を共有しているという自覚を促す。



責任性

これまでの生活を見直し、実践することで個々の役割と責務を自覚し、進んで参加する姿勢を身につける。



多面

背景や知識を学び、その学習を自分が実際に感じる体験をすることで広い視野で総合的に考える力を身につけることができる。



伝達

成果を周りと共有する事で、相手に解りやすく伝える力を身につけ、学校の取り組みを地域活動に繋げることができる。



協力

ゲームやWSを通し、相手の立場になって考える力やみんなで協力し他者を尊重する心を育てることができる。

持続可能な社会の構成概念

ESDで育みたい能力／態度

プログラム（単元・題材）の展開の流れ

総時間
8時間

1

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

ゲームを通じて、動物の気持ちになってみよう(シンパシーワークショップ)

1・2
時間目

グループごとに人間と動物に変身し、エサ取りゲームを体感する。自分が食べられるものを神経衰弱のルールを利用して順番に取りながら、人間の理不尽さについて体感する。

- ①参加児童が地域で保護活動をしている事を共有する。
- ②相手(動物)の気持ちになって考え、シンパシー(共感)を得ることを大切にするゲームであることを伝える。動物、人間役が立場によって感じ方が異なることを、児童が気付き、3回のゲームの中でそれぞれどんな気持ちになったかをワークシートへ記入し、共有する。
- ③汚染された空や海、川、森林伐採について知り、ゲームは現実に起きている事に気付かせる。
- ④ゲーム内ブラックカードとは何か。
〔ゲームカード・ワークシート〕

批判

未来

多面

伝達

協力

関連

参加

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

3・4
時間目

世界で起こっている現実
絶滅危惧種・オランウータンが教えてくれること

マレーシアのオランウータンが森林伐採により生息地を失い、絶滅危惧種となった経緯(なぜ・どのように・何の為に)を知り、考える。

- ①マレーシアの気候風土の特徴やオランウータンの暮らし、現在の個体数等について知る。
- ②平和に暮らしていたオランウータンの森を人間が伐採し、アブラヤシプランテーションとしている事。そこから収穫されたパーム油は日本国内でもスナック菓子や石鹸製品等多岐にわたり使われ、スーパーの棚の半数に及ぶ商品に関係していることを学ぶ。
- ③マレーシアの留学生から、自国への想いやボルネオ島の環境問題についての発表。
- ④人間と生き物の関係について考えたことを共有する。
〔ワークシート〕

批判

未来

多面

伝達

協力

関連

参加

パーム油を通して社会のルールを考えてみよう

5・6
時間目

世界のパーム油について生産量等現状と人間生活での必要性について学び、自分たちのできる事を考え、話し合う。

- ①世界や日本のパーム油市場について理解し熱帯雨林は日本から遠いところにあるが 私たちの生活との結びつきはとても強いことを学ぶ(あらゆる商品の原材料)。
- ②世界の動向から環境への影響に配慮した持続可能なパーム油を求める声の高まりに応え、WWFが中心となり「持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）」が設立された事について、絶滅危惧種の保護と社会ルールの両立についてDVD等で学ぶ。
- ③持続可能な社会のしくみ構築についてのワークを通し、自分のできることを見つけ、成果を発表し共有する。
〔データ資料・RSPO-DVD〕

批判

未来

多面

伝達

協力

関連

参加

	活動・学習内容	指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕	批判 未来
7・8 時間目	<p>地球の仲間たちの声を聞こう！</p> <p>体験講座を通じて世界や地域の絶滅危惧種について知り、学んだ事を基に将来の地球の姿や目指す社会を学ぶ。</p>	<p>①大森山動物園にて絶滅危惧種について学ぶ。 ②特に地域にいる絶滅危惧種については、その理由や解決方法等について具体的に学び、何をすべきかを考える。</p>	<p>多面 伝達 協力 関連 参加</p>

※プログラムのモデル化にあたっては、導入部分に実証校で毎年行っている絶滅危惧種イバラトミヨの保護活動を取り上げ、また熱帯雨林は日本から遠いところにあるが、秋田の店舗に並ぶ多くの商品に原材料としてパーム油が使用されている事を商品を手に取り確認する等、私たちの生活との結びつきがとても深いことを学べる工夫をしている。

地域プログラム化メンバー、実証協力校等

- 地域プログラム化メンバー
- ・ 藍澤 淑雄 秋田大学国際資源学部
 - ・ 佐藤 英明 秋田県環境教育等推進協議会委員
 - ・ 島田 智 秋田県大仙市教育委員会
 - ・ 柳岡 一浩 秋田県生活環境部環境管理課
 - ・ 渡部 純 秋田市地球温暖化防止活動推進員
- 実証団体
- 一般社団法人あきた地球環境会議
- 実証協力校等
- 大仙市立清水小学校